

## (5) 伝統的な言語文化に関する事項

中央教育審議会答申（平成20年1月17日）での国語科における「改善の基本方針」の中で、「我が国の言語文化を享受し継承・発展させる態度を育てること」が示されている。

小学校では「言語文化としての古典に親しむ態度を育成する指導については、易しい古文や漢詩・漢文について音読や暗唱を重視する」こと、中学校では「言語の歴史や、作品の時代的・文化的背景とも関連付けながら、古典に一層親しむ態度を育成することを重視する」ことに留意する必要があるなど、具体的な改善事項が挙げられている。

### ア 語句解説及び留意点（学習指導要領解説国語編より）

#### 小学校低学年

(7) 昔話や神話・伝承などの本や文章の読み聞かせを聞いたり、発表し合ったりすること。

**昔話** 「むかしむかし、あるところに」などの言葉で語り始められる空想的な物語であり、特定または不特定の人物について描かれている。

**神話・伝承** 一般的には特定の人や場所、自然、出来事などと結び付けられ、伝説的に語られている物語。古事記、日本書紀、風土記などに描かれたものや、地域に伝わる伝説などが教材として考えられる。

※児童の発達の段階や初めて古典を学習することを考慮し、易しく書き換えたものを取り上げることが必要である。

#### 小学校中学年

(7) 易しい文語調の短歌や俳句について、情景を思い浮かべたり、リズムを感じ取りながら音読や暗唱をしたりすること。

**易しい** 意味内容が容易に理解できるということ。

**文語調** 日常の話言葉とは異なった特色をもつ言語体系で書かれた文章の調子のこと。

**文語調の短歌や俳句** 歴史的仮名遣いや古典の語句などが用いられている。

※教材としては、親しみやすい作者の句を選んだり、代表的な歌集などから内容の理解しやすい歌を選んだりすることになる。各地域に縁のある歌人や俳人、地域の景色を詠んだ歌や句を教材にすることも考えられる。

(4) 長い間使われてきたことわざや慣用句、故事成語などの意味を知り、使うこと。

**ことわざ** 生活経験などにおいてありがちなことを述べたり、教訓を述べたりするもの。「住めば都」、「犬も歩けば棒に当たる」、「急がば回れ」、「石の上にも三年」等。

**慣用句** 「道草を食う」、「油を売る」などのように、二つ以上の語が結び付いて元の意味とは違った特定の意味を表すもの。

**故事成語** 「推敲」、「矛盾」、「五十歩百歩」などのように中国の故事に由来する熟語。

※言語生活を豊かにするために、これらの言葉の意味を知り、実際の言語生活で用いるようにさせることが大切である。

#### 小学校高学年

(7) 親しみやすい古文や漢文、近代以降の文語調の文章について、内容の大体を知り、音読すること。

**親しみやすい古文や漢文、近代以降の文語調の文章** 児童が、言葉のリズムを実感しながら読めるもの、音読することによって内容を知ることができるような親しみやすい範囲のもの。

※教材に合わせて暗唱や群読を取り入れるなど読み方を工夫することが必要である。

※古文や漢文は、読んで楽しいものであること、自分を豊かにするものであることを実感させる。

(4) 古典について解説した文章を読み、昔の人のものの見方や感じ方を知ること。

※昔の人々の生活や文化など、古典の背景をできる限り易しく理解させ、昔の人のものの見方や感じ方に関心をもたせたり、現代人のものの見方や感じ方と比べたりして、古典への興味・関心を深めるよ

うにすることが重要である。

※言語文化への興味・関心を深めるために、能、狂言、人形浄瑠璃、歌舞伎、落語などを鑑賞することも考えられる。

### 中学校第1学年

(7) 文語のきまりや訓読の仕方を知り、古文や漢文を音読して、古典特有のリズムを味わいながら、古典の世界に触れること。

文語のきまり 歴史的仮名遣いなど現代の口語と異なる古文特有のきまり。

訓読の仕方 返り点、送り仮名など漢文の訓読に必要な基礎的な事項。

※生徒の興味・関心を大切にしながら、教材に即して指導したり、必要があれば取り立てて指導したりする。

※古典の文章を繰り返し音読して、その独特のリズムに気付かせることが重要である。

(4) 古典には様々な種類の作品があることを知ること。

様々な種類 和歌、俳諧、物語、随筆、漢文、漢詩など。また、能、狂言、歌舞伎、古典落語などの古典芸能。

※小学校から親しんできた様々な古典と結び付けることで、古典の世界についての新たな興味・関心を喚起することが大切である。

### 中学校第2学年

(7) 作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界を楽しむこと。

※朗読するに当たっては、現代語訳や語注などを手掛かりにして作品の内容を理解するとともに、そこに描かれている情景や登場人物の心情などを想像しながら読むように留意する。

(4) 古典に表れたものの見方や考え方に触れ、登場人物や作者の思いなどを想像すること。

※長い年月を隔ててもなお現代と共通するものもあれば、現代とは大きく異なるものもある。

※例えば、古典の易しい現代語訳や古典について解説した文章を用いたり、関連する本や文章等を紹介したり、音声や映像メディアを活用したりするなど指導上の様々な工夫が考えられる。

### 中学校第3学年

(7) 歴史的背景などに注意して古典を読み、その世界に親しむこと。

※作品の理解に役立つ事柄を精選して取り上げる。

※作品の歴史的背景などを扱うのは、教材として取り上げた古典への興味・関心を高めたり、内容の理解を助けたりするためであることに留意する。

(4) 古典の一節を引用するなどして、古典に関する簡単な文章を書くこと。

古典の一節を引用するなどした古典に関する簡単な文章 例えば、古典の一節を引用した感想文や手紙、作品を紹介する文章など。

※書く活動を通して、生徒が自分の考えを述べる文脈の中に古典の世界を取り入れるようにすることが重要である。

## イ 「指導計画の作成と内容の取扱い」について（学習指導要領解説国語編より）

### 小学校

伝統的な言語文化に関する指導については、特にそれだけを取り上げて学習させるよう配慮すること。

### 中学校

古典に関する教材については、古典の原文に加え、古典の現代語訳、古典について解説した文章を取り上げること。

## ウ 指導計画例

### 小学校

「伝統的な言語文化に関する事項」は、「各領域の指導を通して行う」ことを基本とするが、「伝統的

な言語文化に低学年から触れ、生涯にわたって親しむ態度の育成を重視している」（学習指導要領解説国語編 p.24）ことを踏まえ、効果的に関心・意欲・態度を育てることに焦点を当て、ここでは「伝統的な言語文化に関する事項」を取り立てて指導する例を示した。

**中学校**

これまで古典の指導は、「指導計画の作成と内容の取扱い」の中で「C読むこと」に関する指導として示されていた。今回の学習指導要領では、「伝統的な言語文化に関する指導事項」で示されたことにより、「A話すこと・聞くこと」「B書くこと」でも古典を扱うことが可能になった。そこで、中学校「B書くこと」の指導計画例（p.60～61）において、古典教材を扱った例を示した。

**伝統的な言語文化に関する事項〔小学校中学年〕**

【〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕における児童の実態】○身に付けてきた力 ◆課題が見られる力  
○詩を読むことを楽しんだり、季節の行事に関わる言葉集めを楽しんだりしている。

◆語彙を広げる。

**【身に付けさせたい力】**

- ①易しい文語調に親しみ、声に出して読もうとする。 〈国語への関心・意欲・態度〉
- ②長い間使われてきたことわざの意味を知ること。 〈伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項ア(イ)〉

**【単元名】**「オリジナルいろはかるた」を作ろう～ことわざを知る～

**【教材名】**〈開発教材〉

**【単元目標】**

- ①リズムを感じ取りながら、いろはかるたを声に出して読もうとする。 〈国語への関心・意欲・態度〉
- ②ことわざなどを基に、オリジナルのいろはかるたを作る。 〈伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項ア(イ)〉

**【授業の具体例】**

時	評価規準	評価方法	学習活動
1 2			ことわざについて知る ・「猿も木から落ちる」「急がば回れ」などの例から、昔から伝わる知恵や教えを短い言葉で表したものをことわざということを知る。
	②ことわざなどを基に、オリジナルのいろはかるたを作っている。 〈言語についての知識・理解・技能ア(イ)〉	作成したかるた	<b>いろはかるたに親しむ</b> ・いろはかるたがことわざを集めて作られたかると知る。 ・私たちの学級だけのいろはかるたを作成することを知る。 ・一人ずつ数枚分担を決め、読み札と取り札を作る。 ・ことわざの本などから、分担した文字で始まることわざを抜き書きする。 ・取り札にはことわざの内容を表す絵を描く。
3	①リズムを感じ取りながら、いろはかるたを声に出して読もうとしている。 〈国語への関心・意欲・態度〉	音読の様子	<b>いろはかるたを使って遊び、ことわざに親しむ</b> ・前時に作成したいろはかるたを既存のいろはかるたと適宜混ぜ、かるた取りをする。 ・全員が読み手を経験し、いろはかるたのリズムに慣れる。 ・いろはかるたを並べ、「いろはにほへと」を読む。暗唱できそうなら挑戦してみる。

**【Cと評価した児童への手立ての例（上記の評価規準の順）】**

- ②ことわざの本や国語辞典などから気に入った言葉を選ばせ、教師と共に1枚作る。〈ア(イ)〉
- ①音読することが苦手な児童には、範読後に復唱させたり手拍子に合わせて読ませたりすることで、音読への抵抗を減らす。〈国語への関心・意欲・態度〉

**伝統的な言語文化に関する事項〔小学校高学年〕**

【〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕における児童の実態】○身に付けてきた力 ◆課題が見られる力  
○歴史的仮名遣いに気を付けて簡単な文語調の文章などを読もうとする。

◆言葉の響きやリズムをつかんで音読する。

**【身に付けさせたい力】**

①文語の調子を楽しみ、言葉の響きやリズムをつかんで声に出して読もうとする。

〈国語への関心・意欲・態度〉

②親しみやすい古文について、内容の大体を知り、音読すること。

〈伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項ア(ア)〉

**【単元名】竹取物語を音読しよう～親しみやすい古文を音読する～**

**【教材名】「竹取物語」〈開発教材〉(資料p.128～129)**

**【単元目標】**

①「竹取物語」を声に出して読み、古文の響きやリズムを味わう。

〈国語への関心・意欲・態度〉

②作品を読んだ感想を交流する。

〈伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項ア(ア)〉

**【授業の具体例】**

時	評価規準	評価方法	学習活動
1			<b>「竹取物語」について知る</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教師の解説を聞き、「竹取物語」の概要を理解する。</li> <li>・静岡県の中の場所について書かれた文章かを静岡県の地図を使って確認する。</li> <li>・「竹取物語」を声に出して読む。</li> <li>・個人読み、グループ読み等、読み方を工夫する。</li> </ul>
2	②作品を読んだ感想を交流している。 (言語についての知識・理解・技能ア(ア))	ノート	<b>「竹取物語」の本文をノートに視写する</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「竹取物語」の冒頭または終末のどちらかを選択する。</li> <li>・分からない言葉については、教師に質問したり挑戦できそうなら古語辞典を使って調べたりする。</li> <li>・イメージした情景を簡単な絵で表現する。</li> <li>・絵を見せながら、文章の内容や言葉のリズム、響きなどについて感想を交流する。</li> </ul>
3	①「竹取物語」を声に出して読み、古文の響きやリズムを味わおうとしている。 (国語への関心・意欲・態度)	音読の様子	<b>「竹取物語」を音読する</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・繰り返し音読し、古典のリズムに慣れる。</li> </ul>

**【Cと評価した児童への手立ての例(上記の評価規準の順)】**

②イメージできない児童には、口語訳を示しながら登場人物がどこでどのようなことをしているかを尋ね、イメージさせる。〈ア(ア)〉

①教師と一緒に読ませたり、一文ずつ交代で読ませたりして、読み慣れさせる。〈国語への関心・意欲・態度〉